

令和7年度 学校自己評価システムシート (県立秩父特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒同士の学び合い、教職員同士の学び合いを推進する学校 児童生徒が身共に健康で、持てる力を発揮できる学校 児童生徒が将来「本人の自覚と生きがい」を感じ、自立(自決)できる生活力を育成する学校 児童生徒と教職員・地域が、元気で笑顔の絶えない、共に暮らしながら成長する学校
重点目標	1 児童生徒一人一人の障害や個性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実施し、専門性を向上させる。 2 保護者・地域・学区の学校及び関係機関等との連携を図り、特別支援教育の理解啓発と協働を通して「地域と共にある学校づくり(コミュニティ・スクール)」を推進する。 3 児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
達成度	B 概ね達成(6割以上)
達成度	C 変化の兆し(4割以上)
達成度	D 不十分(4割未満)

※学校関係者を評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けたとする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	11名

年度目標		学校自己評価		年度評価(2月1日現在)		学校関係者評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>特別支援教育の理念「自立社会参加を念頭に、児童生徒の生活を支援し、個性や能力を伸ばし、一人ひとりの特性の理解と本人の教育ニーズや保護者の願いを把握し、適切な指導を実施し、個性や能力を伸ばし、自立社会参加を促進する。自立活動の時間における指導において個別指導の取組を行い、個別の指導においても個々の課題を達成することができ、連携と協働を軸とした指導体制を充実させ、高等部3年生全員の進路決定までにつなげる。」</p> <p>特に、児童生徒の持つ力を最大限に発揮できるようにするためには、保護者や地域・学区との連携を図り、特別支援教育の理解啓発と協働を通して「地域と共にある学校づくり(コミュニティ・スクール)」を推進する。</p> <p>本年度、外部講師招聘研修の実施等、引き続き、教員の要望に応じた研修を実施することで特別支援教育の専門性を高め、昨年度以上に資質の向上を図っていく必要がある。</p>	<p>①自立活動の推進を図るため、年度初めに、教育支援プラン等やサセメント等の基礎研修を実施する。(4・5月)</p> <p>②外部講師を招聘して、外部講師を招聘して研修等、教員の要望等に応じた研修を実施する。(通年)</p> <p>③自立活動と連携して、自立活動の充実に向けて、新転任者対象研修、事例検討会等を実施する。(通年)</p> <p>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図り、他の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりする。(12・1・2月)</p>	<p>①引き継ぎを行い、児童生徒一人一人の実態を把握し、教育支援プラン及び自立活動の指導計画の作成を行い、根拠に基づいた指導を行うことができた。</p> <p>②家庭訪問や面談を通して、児童生徒の特性や教育的ニーズを把握することができた。また、個別的な配慮が必要な場合は、保護者支援を含めて管理職や関係機関と連携を踏まえて対応することができた。</p> <p>③「ほと相談」等を通して、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者が担任だけでなく誰にも相談できる環境を整えることができた。</p> <p>④チーム会議、支援会議を状況踏まえて適宜実施し、関係職員間の情報共有及び協力体制を整えることができた。</p> <p>⑤連絡、連絡、相談、確約を徹底し、情報共有を通して、全職員で協力し課題解決に取り組むことができた。</p> <p>⑥高等部3年生全員の進路決定に向けて、進路学習、企業と連携した進路開拓等を進め、産業現場等における実習等を通して、生徒一人一人の主体的な取組を促すことができた。</p>	<p>評価項目「各学部と自立活動部による連携と協働によるチーム支援」は概ね達成した。</p> <p>①年度当初、教育支援プラン・研修やサセメント等の基礎を予定とお実施し、全教職員が連携を図ることができた。</p> <p>②「秩父特別支援学校～軌跡と躍進～」をテーマに掲げ、各学部で学部研修を年間を通して10～11回実施した。全教職員が研修のありかたの教員と要望に応じた外部講師招聘研修を実施した。93%の教職員が研修を受けた。</p> <p>③「自立活動」についての研修やNCPプログラム「本田実子」の研修を自立活動部を中心に実施した。また、「自立活動の事例研修」を計10回実施し、校内への参加を得て、報告することができた。</p> <p>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図り、他の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりする。(12・1・2月)</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>「きめ細い対応と多数の会議」に感謝を受けた。数字のみで示されてきた事が多かった。B評価を継続して、自立活動の「時間」における指導に、個別指導の維持・発展を図る。自立活動を中心に県外に発信指導の「自立活動の事例研修会」等を含めて充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導において個々の課題を達成することができるようになること、継続していただきたい。</p> <p>・先生方の多様な進路による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていることと実感している。今後も進路を促している。入口はここでもよいと思うので、声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただきます。</p> <p>・親身な支援を受ける視点が重要である。地域生活支援拠点(緊急一時)の活用や自立活動協働の課題を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えきれない体制づくりを願いたい。業務が積み重なることと負担感が増大する。今後の会議で不要業務を削ぎ出すことも必要である。Googleフォームから業務報告したい。児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向け工夫を凝らしていきたい。</p>
2	<p>地域との連携・発展</p> <p>昨年度は、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。特に、教員の要望に応じた研修を実施し、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、組織的に教育を実施していくための研修を実施することができた。</p> <p>本年度、外部講師招聘研修の実施等、引き続き、教員の要望に応じた研修を実施することで特別支援教育の専門性を高め、昨年度以上に資質の向上を図っていく必要がある。</p>	<p>①職員間の共通理解を図るため、年度初めに、教育支援プラン等やサセメント等の基礎研修を実施する。(4・5月)</p> <p>②外部講師を招聘して、外部講師を招聘して研修等、教員の要望等に応じた研修を実施する。(通年)</p> <p>③自立活動と連携して、自立活動の充実に向けて、新転任者対象研修、事例検討会等を実施する。(通年)</p> <p>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図り、他の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりする。(12・1・2月)</p>	<p>①職員間の共通理解を図るため、年度初めに、教育支援プラン等やサセメント等の基礎研修を実施することができた。</p> <p>②外部講師を招聘して、外部講師を招聘して研修等、教員の要望等に応じた研修を実施することができた。</p> <p>③自立活動と連携して、自立活動の充実に向けて、新転任者対象研修、事例検討会等を実施する。(通年)</p> <p>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図り、他の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりする。(12・1・2月)</p>	<p>評価項目「各学部と自立活動部による連携と協働によるチーム支援」は概ね達成した。</p> <p>①年度当初、教育支援プラン・研修やサセメント等の基礎を予定とお実施し、全教職員が連携を図ることができた。</p> <p>②「秩父特別支援学校～軌跡と躍進～」をテーマに掲げ、各学部で学部研修を年間を通して10～11回実施した。全教職員が研修のありかたの教員と要望に応じた外部講師招聘研修を実施した。93%の教職員が研修を受けた。</p> <p>③「自立活動」についての研修やNCPプログラム「本田実子」の研修を自立活動部を中心に実施した。また、「自立活動の事例研修」を計10回実施し、校内への参加を得て、報告することができた。</p> <p>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図り、他の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりする。(12・1・2月)</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>「きめ細い対応と多数の会議」に感謝を受けた。数字のみで示されてきた事が多かった。B評価を継続して、自立活動の「時間」における指導に、個別指導の維持・発展を図る。自立活動を中心に県外に発信指導の「自立活動の事例研修会」等を含めて充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導において個々の課題を達成することができるようになること、継続していただきたい。</p> <p>・先生方の多様な進路による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていることと実感している。今後も進路を促している。入口はここでもよいと思うので、声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただきます。</p> <p>・親身な支援を受ける視点が重要である。地域生活支援拠点(緊急一時)の活用や自立活動協働の課題を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えきれない体制づくりを願いたい。業務が積み重なることと負担感が増大する。今後の会議で不要業務を削ぎ出すことも必要である。Googleフォームから業務報告したい。児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向け工夫を凝らしていきたい。</p>	
3	<p>地域との連携・発展</p> <p>昨年度は「地域とともある学校づくり」を進めるとして「コミュニティ・スクール元年」として、特別支援教育の学校を「見てもらう」ことを目標に、情報発信や地域との協働活動を進めることに取り組んできた。</p> <p>本年度は、学校運営協議会を推進して、教員の参画意識を高め、本校を「見てもらう」仕掛けや情報発信の「見に行こう」として発信活動を進め、地域と連携し、地域や教育力を生かした教育活動や地域貢献活動も継続して実施する。また、2年目の取組として学校紹介ビデオの活用やHPでのコミュニティ・スクールの取組紹介等、校内外の情報発信力を高める必要がある。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介する。(通年)</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介する。(通年)</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介することができた。</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介することができた。</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>評価項目「コミュニティ・スクールの推進にかゝる取組の整理と校外への情報発信」は概ね達成した。</p> <p>①コミュニティ・スクールの取組の一環として、昨年度作成した学校紹介ビデオを学校公開や介護等の体験等で放映することができた。HPの更新は200回実施し、アクセスやホームページづくりとして本校を宣伝することができた。</p> <p>②学校運営協議会を2回開催した。昨年度と同様に、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図ることができた。</p> <p>④学区連携協議会は2回実施し、学校公開は2回、中高コーディネーター情報交換会は2回実施した。</p> <p>⑤今年度については、学校視察等の訪問が概ね一学期1回の視察があった。(3月・2月)今年度も県内特別支援学校や民生委員等の視察を積極的に行い受け付けた。</p> <p>⑥マニュアルを参考にしながら、年間を通して、コミュニティ・スクールの各取組に取り組むことができた。</p> <p>⑦「まちづくりポイント」については、全部において実施して実施することができた。また、新聞、ラジオ出演等積極的のプレスリリース、メディア関係への情報発信ができた。</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>「きめ細い対応と多数の会議」に感謝を受けた。数字のみで示されてきた事が多かった。B評価を継続して、自立活動の「時間」における指導に、個別指導の維持・発展を図る。自立活動を中心に県外に発信指導の「自立活動の事例研修会」等を含めて充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導において個々の課題を達成することができるようになること、継続していただきたい。</p> <p>・先生方の多様な進路による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていることと実感している。今後も進路を促している。入口はここでもよいと思うので、声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただきます。</p> <p>・親身な支援を受ける視点が重要である。地域生活支援拠点(緊急一時)の活用や自立活動協働の課題を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えきれない体制づくりを願いたい。業務が積み重なることと負担感が増大する。今後の会議で不要業務を削ぎ出すことも必要である。Googleフォームから業務報告したい。児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向け工夫を凝らしていきたい。</p>	
4	<p>地域との連携・発展</p> <p>昨年度は「地域とともある学校づくり」を進めるとして「コミュニティ・スクール元年」として、特別支援教育の学校を「見てもらう」ことを目標に、情報発信や地域との協働活動を進めることに取り組んできた。</p> <p>本年度は、学校運営協議会を推進して、教員の参画意識を高め、本校を「見てもらう」仕掛けや情報発信の「見に行こう」として発信活動を進め、地域と連携し、地域や教育力を生かした教育活動や地域貢献活動も継続して実施する。また、2年目の取組として学校紹介ビデオの活用やHPでのコミュニティ・スクールの取組紹介等、校内外の情報発信力を高める必要がある。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介する。(通年)</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介する。(通年)</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介することができた。</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介することができた。</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>評価項目「秩父地域における特別支援教育への貢献」はほぼ達成した。</p> <p>①学区内の学校及び関係機関の調整を促し、計12回、2019～2021年について特別支援教育コーディネーターを中心に、引き継ぎや情報共有の取組ができた。</p> <p>②学区内小中学校に在籍する児童生徒の支援についてケース会議や研修会を実施した。「線の子供たちの支援」について「アドバイス」などのイベント等も多々あった。</p> <p>③自立活動部長特別支援教育コーディネーター/小児科発達連携運営委員会(21回)参加し、通級指導の運営や通級以外の特別支援教育等についてもケース助言をおこなった。また県主催の通級協議会に出席した。提案についても情報交換を行い、生徒の変化や今後の授業のアイデア等について協議した。</p> <p>④学区内市町内の視学支援委員会に参加し、児童生徒の適切な学びの場について協議し、情報提供を行うなどして役割を果たした。</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>「きめ細い対応と多数の会議」に感謝を受けた。数字のみで示されてきた事が多かった。B評価を継続して、自立活動の「時間」における指導に、個別指導の維持・発展を図る。自立活動を中心に県外に発信指導の「自立活動の事例研修会」等を含めて充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導において個々の課題を達成することができるようになること、継続していただきたい。</p> <p>・先生方の多様な進路による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていることと実感している。今後も進路を促している。入口はここでもよいと思うので、声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただきます。</p> <p>・親身な支援を受ける視点が重要である。地域生活支援拠点(緊急一時)の活用や自立活動協働の課題を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えきれない体制づくりを願いたい。業務が積み重なることと負担感が増大する。今後の会議で不要業務を削ぎ出すことも必要である。Googleフォームから業務報告したい。児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向け工夫を凝らしていきたい。</p>	
5	<p>地域との連携・発展</p> <p>昨年度は「地域とともある学校づくり」を進めるとして「コミュニティ・スクール元年」として、特別支援教育の学校を「見てもらう」ことを目標に、情報発信や地域との協働活動を進めることに取り組んできた。</p> <p>本年度は、学校運営協議会を推進して、教員の参画意識を高め、本校を「見てもらう」仕掛けや情報発信の「見に行こう」として発信活動を進め、地域と連携し、地域や教育力を生かした教育活動や地域貢献活動も継続して実施する。また、2年目の取組として学校紹介ビデオの活用やHPでのコミュニティ・スクールの取組紹介等、校内外の情報発信力を高める必要がある。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介する。(通年)</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介する。(通年)</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介することができた。</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介することができた。</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>評価項目「保健管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の充実」はほぼ達成した。</p> <p>①健康教育部と連携して、熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組み、熱中症事故の発生を防止、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>②事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>③事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>④事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>⑤事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>「きめ細い対応と多数の会議」に感謝を受けた。数字のみで示されてきた事が多かった。B評価を継続して、自立活動の「時間」における指導に、個別指導の維持・発展を図る。自立活動を中心に県外に発信指導の「自立活動の事例研修会」等を含めて充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導において個々の課題を達成することができるようになること、継続していただきたい。</p> <p>・先生方の多様な進路による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていることと実感している。今後も進路を促している。入口はここでもよいと思うので、声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただきます。</p> <p>・親身な支援を受ける視点が重要である。地域生活支援拠点(緊急一時)の活用や自立活動協働の課題を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えきれない体制づくりを願いたい。業務が積み重なることと負担感が増大する。今後の会議で不要業務を削ぎ出すことも必要である。Googleフォームから業務報告したい。児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向け工夫を凝らしていきたい。</p>	
6	<p>地域との連携・発展</p> <p>昨年度は「地域とともある学校づくり」を進めるとして「コミュニティ・スクール元年」として、特別支援教育の学校を「見てもらう」ことを目標に、情報発信や地域との協働活動を進めることに取り組んできた。</p> <p>本年度は、学校運営協議会を推進して、教員の参画意識を高め、本校を「見てもらう」仕掛けや情報発信の「見に行こう」として発信活動を進め、地域と連携し、地域や教育力を生かした教育活動や地域貢献活動も継続して実施する。また、2年目の取組として学校紹介ビデオの活用やHPでのコミュニティ・スクールの取組紹介等、校内外の情報発信力を高める必要がある。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介する。(通年)</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介する。(通年)</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介することができた。</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介することができた。</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>評価項目「保健管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の充実」はほぼ達成した。</p> <p>①健康教育部と連携して、熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組み、熱中症事故の発生を防止、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>②事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>③事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>④事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>⑤事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>「きめ細い対応と多数の会議」に感謝を受けた。数字のみで示されてきた事が多かった。B評価を継続して、自立活動の「時間」における指導に、個別指導の維持・発展を図る。自立活動を中心に県外に発信指導の「自立活動の事例研修会」等を含めて充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導において個々の課題を達成することができるようになること、継続していただきたい。</p> <p>・先生方の多様な進路による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていることと実感している。今後も進路を促している。入口はここでもよいと思うので、声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただきます。</p> <p>・親身な支援を受ける視点が重要である。地域生活支援拠点(緊急一時)の活用や自立活動協働の課題を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えきれない体制づくりを願いたい。業務が積み重なることと負担感が増大する。今後の会議で不要業務を削ぎ出すことも必要である。Googleフォームから業務報告したい。児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向け工夫を凝らしていきたい。</p>	
7	<p>地域との連携・発展</p> <p>昨年度は「地域とともある学校づくり」を進めるとして「コミュニティ・スクール元年」として、特別支援教育の学校を「見てもらう」ことを目標に、情報発信や地域との協働活動を進めることに取り組んできた。</p> <p>本年度は、学校運営協議会を推進して、教員の参画意識を高め、本校を「見てもらう」仕掛けや情報発信の「見に行こう」として発信活動を進め、地域と連携し、地域や教育力を生かした教育活動や地域貢献活動も継続して実施する。また、2年目の取組として学校紹介ビデオの活用やHPでのコミュニティ・スクールの取組紹介等、校内外の情報発信力を高める必要がある。</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介する。(通年)</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介する。(通年)</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介することができた。</p> <p>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともある学校づくりに必要な協働を推進し、地域と連携による協働活動を検討し、実施する。(6月～10月)</p> <p>③学区連携協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月)</p> <p>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介することができた。</p> <p>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティ・スクールの各取組を実施する。(通年)</p>	<p>評価項目「保健管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の充実」はほぼ達成した。</p> <p>①健康教育部と連携して、熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組み、熱中症事故の発生を防止、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>②事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>③事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>④事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p> <p>⑤事故の発生を予防し、適切な迅速な対応を行うことができた。</p>	<p>この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るために、外部講師招聘研修等を実施していった。</p> <p>①教育課程検討委員会と連携して、教管内の各校や県内外の特別支援学校の研修や実践報告会へ参加し、本校の教育課程について、見直し、検討も行った。</p> <p>②年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を充実し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎを図った。</p>	<p>「きめ細い対応と多数の会議」に感謝を受けた。数字のみで示されてきた事が多かった。B評価を継続して、自立活動の「時間」における指導に、個別指導の維持・発展を図る。自立活動を中心に県外に発信指導の「自立活動の事例研修会」等を含めて充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導において個々の課題を達成することができるようになること、継続していただきたい。</p> <p>・先生方の多様な進路による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていることと実感している。今後も進路を促している。入口はここでもよいと思うので、声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただきます。</p> <p>・親身な支援を受ける視点が重要である。地域生活支援拠点(緊急一時)の活用や自立活動協働の課題を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えきれない体制づくりを願いたい。業務が積み重なることと負担感が増大する。今後の会議で不要業務を削ぎ出すことも必要である。Googleフォームから業務報告したい。児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向け工夫を凝らしていきたい。</p>	